宮崎県立日南振徳商業高等学校　　平成２３年２月４日（金）

校長室だより４１(最終)号

中　島　　悟

【キャッチフレーズ】

未来に残そう　伝え築いた　振徳商業
目指せ　三種目　日本一　！

【今月の行事】２月　５日（日）～宅習期間
１９日（土）　ＰＴＡ臨時総会、お別れ会
２６日（土）　第３９回卒業式
２７日（日）　閉校記念式典、感謝の夕べ

１　出逢ったいい話『品位ある日本のために　礼儀覚書』　草柳大蔵氏抜粋
２　閉校記念誌より　校長挨拶 及び　あとがき　第15代校長　中　島　　悟

出逢ったいい話「品位ある日本のために　礼儀覚書」　草柳大蔵著抜粋

社会人になって、初めて覚えさせられた恥、氏が雑誌社の末端編集員として、ある国務大臣の邸に伺ったときの話である。

朝から雨の中を歩いて疲れ気味で辿り着く。応接間に案内された氏は、すぐに、側にあるソファに深く腰を掛け、煙草をふかした。待っていた氏に、奥様は「はい、御苦労様」といって原稿を渡した。氏は紅茶を誘われ、世間話に花が咲く。時間が過ぎ、お暇しようとしたとき、静かな口調で一言、「あのね、よそのお家を訪問して応接間に通されたときは、そこの家の主人が姿を見せるまではいすに腰を下ろさず、立ったまま待つものですよ。
そのために、壁に絵がかかっていたり、花瓶に花が活けられているのです。」と…

氏は、ソファにどっかりと身を沈め、穴のあいた靴底から滲み込んだ雨水にぬれた靴下を両手であたためていた自分自身の姿に、かっと恥ずかしさが込み上げてきたという。

話は、これで終わりではない。それから２０数年後、取材に中山素平氏を氏が伺ったときのことである。「君のこと、実は昨日、田実さんに電話で聞きました。『明日、草柳君という人と会うことになっているんだが、あなたは何時か彼に会ったそうで、そこでうかがうんだけれど、どんな男です、彼は？』そうしたらね、田実さんが電話の向こうで、“ああ、あの男は俺が部屋に入るまで座らないで、立って待っているような男だよ”というんです。それだけよ。それで、僕は君と安心して会うことにしたんだ」

氏は、そのとき、１本の道が瞼に浮かんだという。自分がひとりで自分の道を歩いているように思ってきたけれど、なんと恥ずかしい、浅はかな考えであったか。一応接室のソファにすわらないーただそれだけの教えが、３０年近くも氏の周囲に生き続けてきたというのです。

人格が自分の知らないところでひとり歩きし、作られている。驚きであり、恐ろしさを感ずる。

閉校記念誌より（一部抜粋）　第15代校長　中　島　　悟

日南振徳商業高校は、高校生急増期の最後の新設校として昭和４５年４月に県立日南高等学校商業科から分離独立して、商業科４学級で酒谷川と広渡川の清流に挟まれた丘陵地殿所に開校いたしました。

校名は、旧飫肥藩の藩校「振徳堂」にちなむものでありますが、そこには、自分の天分、個性を振りおこすために、その日その日を大切にし、勉学にスポーツに努力精励して欲しいという郷土の願いが込められています。

創立時に制定された校訓「健康・誠実・友情・情熱」とともに、これまでの伝統として築き上げられた「挨拶の振徳、風紀の振徳、美化の振徳」の振徳商スローガンのもと、地域社会に信頼され、期待される学校として発展向上してまいりました。

創立の翌年である昭和４６年には、産業社会の進展に伴い県内で初めての小学科制が導入され、商業科・情報処理科・営業科の３学科となり、県内の商業高校では初となる電子計算機（汎用機）が設置されるなど商業教育の先導的な役割を担ってまいりました。また、産業経済の変化に対応できる柔軟性を備えた商業人の育成を目指して、力強い教育活動に取り組んできました。

数年後には、各種資格検定のほか、商研の主催する簿記、珠算、情報処理、ワープロなどの競技大会で好成績を残し、九州・全国大会へ出場するなど輝かしい成果を収めるようになりました。特に最後の年、平成２２年度には、県の商業に関する４つの競技大会のうち、珠算・電卓競技、ワープロ競技、簿記競技の３部門を制覇することができました。４つの競技大会の中で、３つの競技を同時に制覇するのは本県初となる快挙であり、有終の美を飾ることができました。

また、体育部門においても、様々な種目において好成績をあげてきました。特に陸上競技部においては学校創設以来、優秀な選手を輩出し、県大会・全国大会で優勝するなど、勉学とスポーツの両立する学校として、確固たる地歩を築いてまいりました。

近年では、実学的知識と技能的習得を柱に、進学の成果をあげるとともに、公務員試験において大勢の合格者を出すことでも注目されるようになり、全商主催の検定試験１級を３種目以上取得する合格率及び公務員試験の合格率においては、県内はおろか全国でも上位となる実績を挙げてまいりました。

しかしながら、少子化の影響により県南地区の高等学校でも学級減がはじまり、平成２０年度の入学生を最後に募集を停止し、平成２３年２月の生徒たちの卒業をもって４１年間の歴史に幕をおろすことになりました。

これまで地域に根ざしてきた本校が閉校になるということは、言いようもなく寂しいのですが、この振徳商業で過ごした青春の日々と、縁あって結ばれた絆は、卒業生並びに多くの関係者の一人一人の胸に深く刻まれていることと思います。その意味で「振徳商の魂」は関係した人々に永遠に存在し続けることでしょう。そして「振徳の精神」は、日南農林高校及び日南工業高校の歴史と伝統とともに、総合制専門高校である日南振徳高等学校へと永遠に引き継がれるものと確信しております。

さて、私達は閉校するにあたり、３８期生と最後の卒業生となる３９期生が一緒になって『未来に残そう　伝え築いた　振徳商業』と『目指せ　三種目　日本一』をキャッチフレーズに掲げ、閉校までの道を進めてまいりました。その目標達成については途中段階ではありますが、目標に向けての取り組み方やその姿勢においては、日本一になることを信じております。また、正門近くに掲げました生徒たちの造った看板「日南振徳商業高校は　平成２３年３月に閉校します　４１年間ありがとうございました」という言葉にありますように、感謝の気持ちを抱いて取り組んでまいりました。しかし、関係する方々には、ご期待に応えられなかった点も多々あったかと思います。心広く受けとめていただきたいと思います。

結びに、閉校にあたり皆様方の物心両面にわたるご支援とご協力に対しまして、心よりお礼を申し上げ挨拶といたします。

あ　と　が　き

本校最後の年を迎えるに当たって、生徒が考えてくれたｷｬｯﾁﾌﾚｰｽﾞ「未来に残そう　伝え築いた　振徳商業」に少しでも手助けになればとの思いで発行した「校長室だより」ですが、４１号で最終号とすることにしました。関係した方々の情熱や思いに少しは触れることができたでしょうか？また、後半から掲載した「出逢ったいい話」は、これから社会人となっていく君達の長い人生の中で、参考になるものがあればとの思いで紹介しました。

日南振徳商業高校で学んだことに誇りを持ち、これからも謙虚に学ぶことを忘れず、聞く耳を持って、夢に向かって努力してください。そうすれば、すばらしい人生が必ず見えてきます。

自分を取り巻く人々の支えがあって成長していくことを忘れないで自分の道を歩いて欲しいものです。